



TACTICS

北海道バスケットボール協会
指導者育成専門委員会
2007 / 9 / 20(木)

タクティクス (HBA指導者育成専門委員会ブログ)

NO. 7

バスケットボールはプレーヤー・コーチ、そして審判から構成される競技です。陸上競技や水泳のように時間や距離ではっきり結果が出せるものではなく、野球や柔道のように審判の判定が勝敗を左右する微妙な競技です。それだけに審判とベンチとの確認事項が一致していないとトラブルのもとになります。

今回は道バの加藤審判委員長に指導者の皆さんが日ごろ思っている審判のジャッジについて代表して質問してみました。答えにくいところもあるとは思いますが加藤委員長の答弁は次のようなものでした。

<質問1>

ペイントエリアにドリブルしてくるプレイヤーに対してオフェンス・チャージングを取る審判とデフェンスのブロッキングを取る審判とがいて判定がまちまちのような気がしますが、申し合わせの基準はあるのでしょうか。

<回答>

同じようなプレイであっても、プレイヤーの動きやタイミングによって判定は変わってきます。勿論、プレイの判定の基本的な解釈は同じです。ただし、審判員の力量や経験によって、このゲームの審判はファウルを取ったのに、さっきの審判は同じプレイなのに取っていないという事はあり得ます。

<質問2>

ボールをムービング・キャッチする時かなりルーズなトラベリングステップが目につきます。強豪チームほどトラベリングがひどいように思いますが笛がなりません。判定基準はどうなっていますか。

<回答>

判定基準は、あくまでも同じです。プレイヤーがボールを受け取る時の状態、足の状態(床との関係)、ピヴォットフットの決定などをしっかりと見極めことが大切です。

<質問3>

ベンチが審判に対しての罵詈雑言には毅然たる態度でテクニカルファールを取るべきだと思いますがテクニカルファールを取る審判が少ないように思いますが、申し合わせはあるのでしょうか。

<回答>

審判はゲームに入る前にプレカンファレンス(お互いの動きや分担の確認・試合の流れやポイントなど)を行います。その中で様々なことを想定して話し合いを行います。テクニカルについてはあくまでも規則に従って判定するというので、考え方はヴァイオリオンやパーソナルファールと同様です。

<質問4>

大学の大会の審判がお粗末だと思いますが、今後審判養成の計画はあるのでしょうか。

<回答>

学連の考え方もあるので回答できません。

<質問5>

我侘な指導者から審判は笛がうまく吹けて当たり前、下手に吹くとブーイングがおきる割の合わない仕事ですが、審判を理解してもらうために指導者の皆さんに望む事があれば話してください。

<回答・指導者の皆さんに望むこと>

審判員は体力トレーニング、ルールの正しい解釈など、コートで正しい判定をするために日々努力しております。しかし、資格や経験不足などから間違った判定をすることもあります。そういった場面があった場合は、アピールだけで終わらずプレイヤーを育てる事と同様に審判員も育てる事をお願いしたいのと、コーチの皆さんもルールブックを読む機会をできるだけ多くして頂ければと思います。

加藤審判委員長から以上のような回答をいただきました。立場上建前論的な答しかいただけませんでしたでしたが私たち指導者と審判が協力して選手を育てていかなければならないのは当然のことです。今後はもっと本音のトークをぶつけ合う事が必要だと思います。そのためには北海道中の指導者や審判がどんな選手を育てていくかと言うところで基本線が一致していなければなりません。例えば、「ぶつかり合っても負けない強い選手を育てよう。」と言うコンセンサスが得られれば多少の身体接触では笛が鳴らないという共通理解が得られ、「審判にクレームをつける指導者は勉強していない。」ということになるはずです。今後も指導者と審判のことはあらゆる角度から取り上げていきたいと思っています。

加藤審判委員長ありがとうございました。

質問担当 指導者育成委員会 幸丸政実

HBA（北海道バスケットボール協会）指導者育成専門委員会